

■実地研修へのアドバイザー派遣

コース		地域名(チーム内訳)	アドバイザーレポート	
A	B	地域等	派遣アドバイザー	内容
1		白神山地(秋田県藤里町)、秋田白神県立自然公園	古瀬 浩史	・藤里館の年間計画(展示、イベント、年間計画)についてのアドバイス ・現行のプログラム(パンフレット)を見ながら、内容や広報等についてアドバイスを行った。 ・人材育成についてのアドバイス 藤里町がすでに実施しているガイド養成事業、県が計画を進めているガイド認定などの話を聞いて、各地の研修会や認定事業などの内容をアドバイスした。
1		山形県大江町	江崎 貴久	地元でみんなが主体性をもって取り組めるプログラムであり、その他の人も巻き込んでいけるようなフィールドの展開を行っていく必要がある。今回のフォローアップで、簡単な行動指針を作成した。今後はそれに基づいた計画を再度検討し、事務局を通してアドバイザーへ相談していただきたい。次年度は他の団体も一緒に七軒地区のマップ作りを行い、その上で、モニターツアーなどトライアルを実施していただきたい。その後のタイミングで、再度アドバイザーがあれば加速がつかうと考える。行政にも変化が表れやすい頃と思われるので、トライアルの後に検討していただきたい。
1		宮城県石巻市及び南三陸町 三陸復興国立公園	川嶋 直	・神崎崎キャンプ場の運営についてのアドバイス(新たな料金プランなど)。 ・ネイチャーセンターの歴史の紹介についてのアドバイス(展示には災害の歴史も入れる)。 ・南三陸は様々な「教材」の宝庫。は南三陸でしか学べない価値がある。現在の「ありのまま」の南三陸町を自分の目で見るということ自体が大きな教育になる。
1		立山エコツーリズム研究会	安類 智仁	今回はガイドオフシーズンだったので、フィールドの確認や、実際のガイド風景を見る事ができなかった。次回はオンシーズンに実際の活動を見させていただけながらフォローアップすることが効果的。目的・目標の混在は見当たらないが、既存ガイド組織間での交流と連携を進める計画があってもいいと感じた。
1		鳥取県日南町	松田 光輝	経験や知識を含め、全体的なサポートが必要である。宝探し、プログラム開発、ガイド技術、エコツアーのプロモーション、ルール作りと利用の仕組みづくり、オオサンショウウオとヒメタヌキは重要な資源ではあるが、エコツアーを実施するためには自分が一番のことに気づいてもらう必要がある。
1		香川県高松市 屋島地域自然活用事業実行委員会	松本 毅	① 地域住民、周辺地域を巻き込んだアンケートによる資源の掘り起こし、見直し ② これまでの既成概念にとらわれない大きな視野でとらえた屋島の魅力を観光客目線でソフトの開発を行う。エコツアーに限らず、食事、時間の使い方、情報提供など。 ③ 屋島のことだけでなく地域連携を作り、エリアとしての魅力を作り出す。(屋島・庵治・牟礼) ④ ビンターセンターのオープンに合わせて、屋島エリアとして大々的に売り出し、新しい屋島のイメージを作り出す。
1		阿蘇くじゅう国立公園(熊本県、大分県)	松田 光輝・吉見 清二	松田アドバイザー 集合研修後の行動計画のブラッシュアップは短期間にも関わらず、しっかりと取り組まれていた。中核となる火山博物館の職員と県職員の方のやる気と能力は非常に高いと思った。問題を課題に変える能力があるので、より具体的なアドバイスや必要なノウハウの提供をすれば飛躍的に伸びる地域と考えられる。今回は滞在時間が短かったため、課題が整理できていたにも関わらず、十分なアドバイスができなかったことが反省点である。現在のツアー参加者は2,500人・収入500万円程度であるが、スケールメリットを活かせれば、今の20倍以上の市場性があると考えられる。 吉見アドバイザー オール阿蘇という阿蘇火山口周辺をテーマにするのではなく、裾野の地域全体を巻き込んだ一大阿蘇ツーリズムワールドの形成による地域活性化戦略としてのダイナミックな取組に昇華させて展開して欲しい。阿蘇大カルデラは、外輪山から内側全体を包み込み包容力をもつ、他に類を見ないスケールの大きさが誇りであり、売り出せるはずである。そこでは、環境省のよりグローバル視点を持ったリードで、実質的な事業運営を担う立場の熊本県との共同事業として取り組まれ、大事な当事者は阿蘇市はじめ地元市町であることを再認識され、地域全体を巻き込んだ「阿蘇清いプロジェクト」に、さらに、「くじゅう」との連携による一体的な対外的イメージを全国にそして世界に発信できる体制を構築して花を咲かせていただきたいと願う。
1		阿蘇くじゅう国立公園(大分県くじゅう地域)	松田 光輝・海津 ゆりえ	松田アドバイザー・海津アドバイザー 共通アドバイス 「野焼き(人材確保)」については勉強会からスタートするが「考える会」など組織的なものを最初から作ると警戒する人が出てしまう可能性がある。草原の価値については学び、草原の意味を共有し、それから草原環境の維持に向けた協力体制作りについて話し合う。マニュアル作りや人材育成のための指導者は外部からの協力がなければ牧家組合だけでは解決しない。
1		鹿児島県薩摩川内市 国定公園甕島(こしきしま)	松本 毅	これまでのようなエージェントに営業をするのではなく、消費者に営業をするという考え方が必要。2月、3月に実施したモニターツアーが売れなかった。広報を行政に任せればよかった。もっとターゲットを絞ったモニターツアーを作り、ターゲットに届く工夫をしなければならない。リサーチがされていない、一つでも売れたという実績が欲しい。そのため、協議会などの会議で合意が得られないとか足並みをそろえてとか言っていないで、民間で突破口を作ることが必要なのではないかと思う。助成金頼みではなく、助成を要求していくくらいの勢いが必要。
1		宮城県えびの市 霧島錦江湾国立公園 霧島地域 えびの高原	山崎 宏	・地域の「魅力」や「宝」を整理する作業(アドバイス&ファシリテーション) ・その魅力や宝を活かす上で、地域が抱える「課題」を抽出する作業(アドバイス&ファシリテーション) ・エコミュージアムセンター内へのツアーデスク設置について ・複数の県・市町との調整が不可欠な地域へのアドバイス
1		鹿児島県鹿児島市・桜島地域(霧島錦江湾国立公園)	山崎 宏	・運営についてのアドバイス。 ・2月26日に開催された「桜島ジオサルク設立説明会」での配布資料を読み合わせながら、焦らず、小さく始めることを意識すること、また、既に同様の活動を展開している桜島ミュージアムとの連携を大切にすること等についてコメントした。 ・桜島の内部要因(強み・弱み)と外部要因(機会・脅威)を抽出した。 ・ツアーの品質向上に向けて必要なことの整理。 ・自分自身および仲間がスキルアップするためにできることの出出しを行った。
1		沖縄県座間味村(慶良間諸島国立公園)	古瀬 浩史	・整理途上のインタープリテーション計画についてのアドバイス ・ビジターセンターの展示やプログラム、運営に関するアドバイス ・人材育成についてのアドバイス